

第26期岡山県産業教育審議会第4回会議議事録

令和3年10月25日(月)10:00~12:20
日本赤十字社岡山県支部会議室第2・3

出席委員 太田委員、考藤委員、剣持委員、後藤委員、武田委員、中山委員、
服部委員、福田委員、福原委員、宮田委員、山根委員、吉川委員

1 開会

服部会長あいさつ
教育長あいさつ

2 報告及び審議

(1) 報告

第3回専門委員会
専門委員会委員長の山根委員から報告

(2) 審議

建議(案)について

(委員)

○ 「はじめに」の2段落目に関連するが、コロナ禍で、様々な情報を集めて異なる立場の者が相談し、協力しながら判断して実施するということを体感した。そうしたことが、これからの生徒に対して、本当に大切なことだと実感した年だったので、内容に少しでも盛り込むことができれば良い。

(委員)

○ この文章中に、そのニュアンスは含まれているかと思う。変化が起きてしまっているから、何かを補足して対応していかなければいけないという話では対応が遅い。

(委員)

○ I 1の高等学校学習指導要領の各職業分野に関する課題の部分で、「倫理観をもって合理的かつ創造的に」という表現は、「倫理観をもって創造的かつ合理的に」が適切ではないか。創造的であって、その上で合理的に考えて動かないといけないと思うが、どうか。

○ 「産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に」とあるが、「協働的」という表現は、「協調的」が適切ではないか。協調と協働は若干意味が違うと思うが、なぜ「協働的」なのか。

(委員)

○ I 1の高等学校学習指導要領について、括弧書きの部分は、読みにくいため、「社会的意義や役割を含め、各職業分野について」や「持続可能な社会の構築、グローバル化、少子高齢化への対応等、各職業分野に関する課題を発見し」のように記載した方

が良いのではないか。

- I 2 (2) については、AI、IoT、ビッグデータ等の先端技術があり、今後、多くの職種がコンピュータに代替されていくという表現があるが、コンピュータではなくこうした先端技術に代替されるという表現が適切ではないか。

(委員)

- I 2 (1) に関連するが、雇用の情勢として、生産年齢人口の減少を受け、製造業や福祉関係を含めて人手不足の状況にあると思う。そうした状況の中で、持続的な社会や経済の発展のためには、ニーズを踏まえた人材育成をしていく必要がある。

(委員)

- I 1 の第3次晴れの国おかやま生き生きプランの引用部分に、「学校、家庭、地域、企業、大学等が連携し」とある。今回、III 1 (2) 中では、「地域や企業、職能団体、行政等と連携し」という表記に変更しており、I 1 についても、同プランは行政主導で行っていることを踏まえ、行政という用語を追加した方が良い。行政が他の機関と連携することは、非常に重要だと思う。

(委員)

- 事務局の方で、この部分は第3次晴れの国おかやま生き生きプランや第3次岡山県教育振興基本計画に書かれているものをそのまま引用したのか。

(事務局)

- 前半部分は第3次晴れの国おかやま生き生きプランから、後半部分は第3次岡山県教育振興基本計画からそれぞれ引用している。

(委員)

- 第3回審議会において行政という用語を追加してはどうかという意見があったので、III 1 (2) に追加したということか。

(事務局)

- その通りである。

(委員)

- I 1 については、引用であれば、修正するのは難しいと感じる。

(委員)

- 「おわりに」に、「新しい時代を切り拓く産業人材を育成していくことが重要である」との記載があることから、I 1 の高等学校学習指導要領についての記載では、「主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。」で終わるのではなく、「未来を切り拓く能力」のような用語を入れることで、建議全体を通して整合性が図れるのではないか。

- 3 ページ目に、「生徒1人1台端末の活用や校務等のデジタル化など教育の情報化を推進している」とあるが、情報化を推進することによって、どんな学びを推進していくのかについて記述する方が良い。例えば、個別最適な学びの実現とか、教員の働き方改革とか、具体的に入れる方が、イメージしやすいと考える。

(委員)

- 「はじめに」の箇所にも、新型コロナウイルス感染症が就労形態に大きな変化をもたらしているという記載がある。それを受けるとすれば、I には現状を記載しているので、新型コロナウイルス感染症による就労形態の変化について触れる部分があると、

全体としての整合性が図れると感じた。

(委員)

- I 1 の高等学校学習指導要領については、学習指導要領に記載されている表現だと思う。このあたりの表現は、国に揃えるのか、県独自で書くのかについて検討が必要だ。
- 県内就職率の推移に関するグラフは、本県は全国と比べて県内就職者が多かったが、ここ数年は全国平均並に落ちてきている。一方で、去年は全国平均よりも上回っており、県内の産業界に人材を送り出しているという内容を本文に書けないか。

(委員)

- I 1 の高等学校学習指導要領について、「持続可能な社会の構築」は、「持続可能な社会への貢献」程度の表現が適しているのではないかと考える。また、「少子高齢化」という用語は、県としてどう使われているか分からないが、少子化と高齢化は別物として捉えられているので、ここは分けて書くのが良いと考える。
- I 1 の第3次晴れの国おかやま生き生きプランについて、インターンシップに関する記載があるが、実際には、産業界だけが対象ではないと思うので、「産業界等」としてはどうか。
- I 2 (2) の見出しについて、令和 22 年頃を見据えた変化ということだが、何が起るか全く予測ができない時代において、社会の変容を予測し、変化に対応できる人材の育成というような表現にする方が良いと考える。

(事務局)

- 国や県の動向の表記については、平成 30 年に告示された高等学校学習指導要領から、職業学科に係る部分の内容をそのまま引用している。また、近年の他県における審議会の建議や答申等も参考にして、このような形で表現している。

(委員)

- 言葉や表現によってニュアンスは変わってくるような気もするが、事務局はどう考えるか。

(事務局)

- I 1 については、様々な御意見があるが、高等学校学習指導要領の内容に沿って記載しており、こちらの解釈で文言を変えていくのは難しい。括弧書きの部分についても、国がこの形で示しており、こちらで変えるというのは難しいと考えている。

(委員)

- 審議している者は、どこからどこまでが引用部分か分からない。事務局の考え方が見えてこない。ほとんどが引用と言われると、こちらでも意見の出し方が変わってくる。

(委員)

- 引用の部分は、現状のままでよいと考える。3 ページのデジタル化に係る部分については、何か出典があるのか。

(事務局)

- この部分は、引用部分ではない。

(委員)

- この部分は、具体的な学びについて記載した方が良いと感じた。

(事務局)

- 具体的な学びについては、例えば 11 ページ (2) エの部分で ICT に関する学びの必要性を記載している。

(委員)

- その点については、後ほど確認したい。I 2 (2) については、狭い範囲で予想し過ぎている。変化の状況を捉えられるとか、それに対して素早く対応できるとか、又は自分から変化させていることを意識するといったことが大切である。見出しは、何か出典があるのか。

(事務局)

- この見出しは、第 3 次晴れの国おかやま生き生きプランを参考としている。また、委員の指摘で生産技術に代替されるという表現が適切ではないかという件については、同プランの中では、コンピュータで代替されると表記されており、その表現を使用した。

(委員)

- 引用でないのであれば、二つの項目に分けて書く必要もない。包括的に簡単に示し、様々な変化があるが、その変化に対応できる、変化を捉える力という書き方が良い。

(委員)

- デジタルの一つの変化としては、ダイバーシティが大きなテーマになっている。産業教育全体に関することとして、主体性を育むことが明記されており、後半部分につながりやすい。教育改革が進み、学ばせる教育から考えさせる教育に変わってきており、開かれた問いや開かれた教育により、変化に対応できる人材が育成できると考えている。

(委員)

- I 2 (2) については、起業する人、創造的に作っていく人、自ら進路を切り拓いていく人も対象に育成してほしい。この文章では、会社の経営者側の書き方になっている。建議を読む人は、様々な人がいるので、このような時代を見据えて、自分は新しい社会を切り拓いていくということが伝わるような内容を入れてもらえればありがたい。

(委員)

- 新型コロナウイルス感染症について、Ⅲには記載があるが、Ⅱには記載がないため、違和感がある。デジタル化の推進の部分に、デジタル化が一層加速されたことについて少し触れてほしい。

(委員)

- Ⅱ 1 で、学科数については、内容をよく知っている者は分かるが、一般の方は見て分かりにくい。ものすごく幅広いようにイメージされるが、実際には呼称が違うだけで、個別に分けて記載している。補足説明が参考資料についていけば良い。

(委員)

- 建議の際に、例えばホームページに掲載するなど、県民に周知する方法はあるか。

(事務局)

- 建議は、高校教育課のホームページに掲載する。

(委員)

- 学科等の補足説明は、建議の中に書き込むのではなくて、県民に工夫して周知すれば良い。

(事務局)

- 建議の中ではなく、補足資料のような形で、学校や学科の紹介はできると考えている。

(委員)

- 逆に細かく書かず、農業科6校という形で表記すれば良いと考える。

(委員)

- II 2について、「社会人講師の活用」とあるが、III 1 (2) の第4項目も社会人講師の授業を念頭においた記述だと思う。これは、以前からあり、非常に良い取組だと思うが、II 2の特色ある取組としての記載に加え、改めてIIIでも記載されており、何か新しく取り組んでいくのかと捉えられるため、IIIの記載はなくても良いと思う。

(事務局)

- 社会人講師活用事業については、これまでも実施されている取組だ。III 1 (2) の記載内容については、第3回審議会において、皆様からいただいた御意見を反映している。特に、先輩が学校に来て、後輩たちに教えることなどと想定している。

(委員)

- 社会人講師の選定は、もっと幅広い分野の先輩であるとか、様々な意味で今ある授業を何か工夫して実施しているものと捉えているが、いかがか。

(委員)

- 良い事業をしていただいていると思うので、続けてもらえればと思う。

(委員)

- II 2について、新型コロナウイルス感染症のところで、各学校の先生方や生徒は、昨年度も今年も大変な取組をしたと思う。全体的に、新型コロナウイルス感染症のことをもう少し入れた方が良い。
- II 3最後の項目について、高校生が採用前に企業の情報を十分に得られていないという記載があるが、高校生も企業に関する情報収集を行うが、企業も高校生に関する情報収集を行うことが重要であると感じている。記載内容としては、これで十分である。

(事務局)

- III 1 (2) 第3項目において、地域や職能団体、行政等と連携し、外部の方が学校に来て、企業の方とより良い情報交換ができるようなことも記載している。
- II 2の文章構成としては、前半の部分については、今までなかったことに対して新型コロナウイルス感染症により新しく取組を始めたこと、後半部分については、これまでやっていたが、新型コロナウイルス感染症により制限を受けたため工夫したことという二つの構成に分けている。福祉の生徒は、当然、これまで施設で臨地実習を行っていたが、緊急事態宣言下においては、実習は中止又は延期等の対応がとられた。その中で、例えば、施設の職員が、タブレット端末等で施設の様子を、オンラインや録画で配信したものを生徒が視聴するといった内容について掲載している。

(委員)

- 学校現場では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、様々なことに対応しなけ

ればいけないということに気がつき、学校現場が変わっていったということがニュアンスとして表現できれば良いと思う。

(委員)

- 新型コロナウイルス感染症への対応について、企業には様々なことが求められていると思うが、生徒の意識の中にも、遊びや部活について制約が増えていると感じているのではないか。リアルな経験が減っている中で、会社に入っても沢山の問題があり、どんな方向性で対処するか、どうカバーしていくかということが重要である。

(委員)

- II 2 中に「オンラインで生徒に伝える」とあるが、イメージしにくい。例えば、交流の機会を設けるなどの方が、イメージが湧きやすい。また、新型コロナウイルス感染症の状況に対して、補完的な形で ICT が使われただけではなく、今までできなかったことができたことによって、新たな学びや新たな価値など、より良くなったことが沢山あったと思っている。こうした形で記載いただくと、未来につながり、今の活動がより循環してくるのではないか。

(委員)

- III 1 (2) 中に「外部の方が学校に来て」とあるが、進路指導の先生が、就職や離職に係る情報を蓄積しているのか。学校に来てもらうだけではなく、もう少し学校の先生が外部へ出て行き、外部の方とつながった上で、外部の方にも学校に来てもらうという流れを作っていかなければならない。一人の先生が持っている情報を学校の中で共有し、デジタル化するというのは、こういう所に生かされるべきで、双方向でのつながりが、充実してくるのではないかと思う。

(委員)

- 建議には、今までになかったことを充実していかなければならないということを書いているように、私は思ったが、どうか。

(事務局)

- 就職に関する情報については、教員が外に出て情報収集に努める必要があると思う。県の事業として、就職した生徒の企業に教員が出向き、生徒や企業の情報をヒアリングしてくる職場適応指導というものもある。また、先生方は、専門科も普通科も関係なく、外に出て行こうとしているので、企業と学校とのつながりの中で、つながりを機に学校へ来てもらうことは可能であるかと思う。そうした意味も、この部分に含んでいると考えていただければと思う。

(委員)

- 企業側も学校の状況を知らなければいけないという話で、我々企業側が何故知らないのかという議論はなくて、企業に知ってもらうためにどうするかということを学校は考えないといけないと思うので、そうした意味も多分に含んでいるのだと思う。

(委員)

- II 2 に関連し、参考資料 23 ページ掲載のマイスター・ハイスクール事業に真庭高校が取り組んでおり、同校の新たな取組として、地域の産業界とのカリキュラム開発がある。単発のインターンシップや外部講師授業ではなくて、3年間のカリキュラムの中で、どんな生徒を育てるためにどんな取組をするという流れがあって、そこに地元の地域行政

や産業界が入り、高校と職業教育をしていく素晴らしい取組なので、ここに入れてほしい。

(委員)

- 学科の名称について、農業科、農業に関する学科、農業など種類が分かれているので、統一することが可能であれば、統一してもらった方が不慣れな者にも分かりやすい。
- II 2について、何らかの目的のために各校が工夫して取り組んでいると思うが、この記述だとその目的が見えてこない。職業系学科の特徴とする何か方針みたいなものがある、特色ある取組が書かれているのであれば、今の羅列でも良いと思う。今のよう羅列されている状態では、取組をすること自体が目的となっているような捉え方をされるおそれがある。

(委員)

- III 1 (2) について、今の生徒は狭い世界で自分に必要な情報を取りに行くため、幅広い情報が入ってこない状況にあると感じている。様々な職業人に会い、話を聞く機会も非常に少ないと感じている。中学生はもちろんだが、高校生も、非常に高い目的意識を持っていればしっかりと情報を得ている可能性はあるが、その前提として、幅広く活躍をしている大人や素晴らしい職業人の生き方について、生徒に意図的に出会わせることの重要性を盛り込むべきだと思う。
- III 1 (2) と 2 (2) ウに、社会課題を解決する力の育成という記述がある。そのとおりだと思うが、その重要な学習を組み立てるための教員の力量が備わっているのかと感じている。課題解決型学習や探究型の学習は、高い指導力が備わっていないと単なる活動になるケースが多く見られる。III 2 (1) に教員の資質・能力の向上という項目もあることから、付け加えてほしい。

(委員)

- III 1 (3) 中に「行政の視点や意図を十分に理解し」とあるが、具体的にどのようなことをイメージしているのか。

(事務局)

- 学校や地域という視点から学校と地域とを連携するのではなく、第3回審議会において、行政の視点から全体を見渡せるという御意見を頂いたことを踏まえ、ここに反映をしている。

(委員)

- 普段、行政を担当している者として、表現は何となくは分かるが、もう一段階かみ砕いて書いてあると分かりやすい。

(委員)

- この項は、コーディネーターの視点に触れたところなので、全体を通して様々な具体的な指標等があるが、学校現場だけでは、到底、抱えきれない。その中で、コーディネーターの必要性というのが、ここで強調されているのではないかと考えている。

(委員)

- ここは、専門委員会が出た意見を基に作成されており、地域の担い手を育成するに当たり、行政の視点を持ってコーディネートできる方が必要ではないかということだと理解している。単発のインターンシップ等の事業ではなくて、継続する取組を学校は望ん

であり、そうした視点も入れてほしいという意見だったと思う。

(委員)

- Ⅲ 1 (2) の第 1 項目に、「就職を機に都市圏へ出ている者も多い」とあるが、職業系学科では 2 割強が県外へ就職し、約 8 割が県内に就職している。職業系学科から進学をする際に、都市圏へ出て行く生徒が多いと思うので、「就職」を「進学や就職」としてはどうか。すぐに就職しなくても、高校時代に様々な企業を知っていると、県外に出た後に地元に戻ってくる生徒も多いと思う。
- Ⅲ 1 (2) の第 5 項目では、中学校と高校のキャリア教育について述べているが、高校が子ども園、小学校、中学校と連携した取組が、参考資料に沢山紹介されている。生徒の変容の欄には、自己肯定感の高まり、コミュニケーション能力の伸長、地域を支える人材としての誇りの高まりなどがある。地域の人と関わることにより、高校生の意識に変容が見られたと思うので、こうした取組を是非推進して欲しい。連携とその成果として、新たな項目で示してはどうか。また、同じ項目に付け加えても良いと思う。

(委員)

- ここはキャリア教育についての記述であるが、幼小中との連携についても記述するということか。

(委員)

- 異世代交流とも言うが、少子化が進んでおり、幼小中学生にとっても、異年齢の人と交流することは、魅力的で効果的な事業だと思う。「また」でつないでも良いし、新たな項目としても良いのではないか。

(委員)

- Ⅲ 2 (2) エに関連し、学ぶということが、考えることに変容している。学びの変革が必要である。ここで重要になるのが、ICT だと思っている。ICT を使うことによって、今までの学びが、より効率化されて、考える授業ができ、考える過程に必要な物として ICT が提供されるものだと思う。
- データを使った教育のマネジメントの観点で、生徒たちの個の状況をデータで把握することによって、より先生方の教育を支援するような方向に進むものと思う。本建議中、ICT の推進は大きな柱だと思っている。

(委員)

- Ⅲ 2 (1) ア中に「ダブルワークが主流になってきている企業もある」とあるが、どこまで主流になっているかが気になる。こうした書き方よりも、「副業・兼業を認める企業も増加していることから」として、様々な働き方がある中で、専門家が教育に携わることができるような言い方にした方が良い。「ダブルワークが主流になっている企業」となると、少し限定した意味合いになると感じた。

(委員)

- この部分については、むしろ、枕言葉もなくとも良いのではないか。

(委員)

- Ⅲ 2 (2) ウ中に「地域が抱える課題の解決を図っていく」とあるが、課題と問題の区別はできているか。問題は解決するもので、課題は解決するために取り組むものであり、通常、課題を解決するという言い方はしない。

(事務局)

- これまでは課題という言葉を用いて、課題解決型学習など課題を解決するという用例としている。建議中、他の部分でも同様の用例としている部分はないか精査したい。

(委員)

- Ⅲ 3 (3) に関連するが、商業科の高校に大学進学を前提にしている生徒が非常に増えてきている。商業科の高校を視察した際に、デュアルシステムとして、企業等との実践的な教育を通じて、経済や経営等を学んでさらに上級学校へ進学することで、生徒の意欲が高まり、さらに深めていきたい分野につながっているようだった。しかし、本文中にはそうした事項には触れられていないが、事務局はどう考えているのか。

(事務局)

- 進学や就職については、Ⅲの中には要旨として含んでいない部分であり、対応について検討する。

(委員)

- Ⅲ 3 (1) 中に、脱炭素社会や環境保全型の農業、食品ロスの問題など生徒が学んでいる内容が含まれると良い。

(委員)

- Ⅲ 3 (5) について、これからの社会においては、医療も変化し、その中で地域包括ケアシステムの構築が進んでいく。先を見据え、社会地域に根差した看護や医療体制の構築と併せて、看護師を養成していく必要がある。これから求められるのは、医療機関での看護を基本としつつ、健康増進、医療の高度化、介護予防などにも対応していく必要があり、看護の場も広がってくる。医療を取り巻く環境の変化を踏まえ、この表現でも問題ないか。

(委員)

- 学校家庭クラブと生活関連産業という表現が良いと思う。

(委員)

- 農業は環境問題が大変多くあり、私たちも様々なことに取り組んでいる。緑の戦略と呼ばれるように、高校の時から理解をして農業に関わってほしい。今回の審議会の内容は、先生方で共有してほしい。

(委員)

- 11月25日に建議をする予定であるが、会議はこれで最後となり、会長、副会長と相談しながら今後の対応を決めるという流れになっている。建議に内容を付け加えてはどうかという意見や、教育現場の変革に関する非常に大きな流れについて記載してはどうかとの話もあり、事務局において検討してほしい。新型コロナウイルス感染症の拡大により、教育現場の変革に対して学校が連携していくには、様々な力が必要であることが分かった。

(委員)

- この審議会は1年に渡り審議を重ねたが、非常に意味があったと思う。この2年間は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、世界や日本が様々なことで変わらなければならない時期であり、建議にも多くの観点をまとめて考える必要があった。この建議は、英知を絞ってまとめられており、この時期にまとめられたことは非常に意義がある。

変化を意識して、教育の方向性が考えられていることは大変良いと思う。変わらぬものは変化のみという言葉があるが、この先 10 年、20 年と続く変化をつなぎ合わせて、本県らしさを出して、皆で意見を出し合って建議ができることは大変ありがたく、感謝申し上げます。

(3) その他

建議は、令和 3 年 11 月 25 日予定

3 その他

特になし

4 閉会

武田副会長あいさつ

鍵本教育長謝辞